京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

▲一枚金二錢▲一ヶ月前金六十錢▲三ヶ月前金一圓八十錢▲六ヶ月前金三圓十五錢
廣告料　五號活字一行金十八錢
▲每週月曜日及び大祭日の翌日は休刊
發行兼編輯人　高木久一郎
印刷人　松久卯一郎
發行所　京城新報社
仁川支局
東京支局　東京市京橋區南鍋町

雜錄

●蟇老人の醉氣焰

青蛙

蟇老人曰く今日は一ツ支那動亂に付ての意見を承り度いものだと嵐山の學究先生が天下の大勢を知らんやだ、ナンダそんな可笑な口調の鈍遅は抜にして無辯舌かせろッてアハヽヽ吹くではないが支那今日ある事は十數年前に既て老人抔はちやーんと看破したものだッてコザ蟇に商人間に說いて支那保全（四大君）を指して居る我國民の見地よりして通商要路の大官に早く大方針を極めて置かんと支那金融の社稷が物騷になるイヤ外國杯が分割する樣な事は何でもない政府軍隊を亡すものはソレ滿蒙ならんかと云ふ意味で脅かしたものだ朝が大厦の將に傾れんとする一木のよく支ふる處にあらずで上下皆醉狀態にある滿朝の盲耳に通らんのだヤア利權國敗だヤア滿洲經營はドーヤア親米親獨だなんかとつまらん騷ぎをして居る内ドーダ烽火頻々四百餘州を擧げて斷裂的氣運になつたでないかまるで鉢の巣をつツついた樣にてさまりが付かん事になつたでないか今更ベツを掻いたツてドーナルものでない……

エーツレデ老人抔は支那の保全は兩朝の力量匪恃むべきでないと看た矢先三四年前の事だ東京で貴と面會した時に是等の事を話して聞かしたに何でも大事を謀るには支那保全と云ふ事を大眼目にせんければ萬事駄目だと云ふ事を聞かしたよ……老人は國際法杯と云ふ小六ケ敷ものは知らんが革命軍を長髮賊國變滿國の内亂と見るの謬見は過去となつた最早立派な交戰國として見る方が至當であらうソレヲ屁理屈斗りコネてるとソレコソ取返しの付かぬ事になるよ老人抔は毎度ヒヤ〳〵もので見て居るよナンダツテ法螺もツノ位吹けれや與行ものになるツて中々人が感くなツたね……ナンダれ爾來口年は若いし親兄弟はなし妻子はなし金はなし死だツてれしくなしするから武昌か漢陽邊へ行て見るがよい將來の參考になる事もあるだらうから……ナニ洪か貴に手紙書けと此大箆棒の腰抜け奴老人はソンナ馬鹿の腰拔野郎じやないぞ喝

●ボンクラ記

野崎小蟹

◎山根正次氏が此京城に居られる、僕の父と昔しは酒呑み合ふた方である、當時父に語られたのは國五年で心臟病だとの事、蹉跎中したり、懸しいかな父既になし。

◎三多摩郡の自由黨の選擧と云へば天下に鳴らしかつたものだ、僕も三多摩生れだ、日韓社長の吉野君も同じだ、他にいくらも來て居られる、青木君靑中君等もある、是非新年には相會して種々の說を談笑したいのである

◎京城新報てふものがあるとの事だ、自己主義で上官にへつらひ、朋友を落し穴に入れる事なり、オヽこわやの世の中でもある。

◎韓人も多い故世界を達觀して欲しい者義はアクヌケがしない、猪氏の筆跡はなつかしいが、猪はれた書風だ。

◎舞尾君新鮮雜誌に精を出されてる、某樣の關鍵が顯著だ、内容は知らぬ。

◎謠曲は前世紀の遺物だ、僕の寓居に過般まで同じ鍋を突かせて置いた男が或る生意氣な男で觀世の謠本で寶生の謠ひをやれるとの事であつた、鯛の聲を油蟬が眞似られると思つて居る。

◎先達て水原へ農業の模範場を見に行つた、模擬菜あり、僕を同郷人と稱して大馳走せられた、場内の小使先生の好意忘るべきやである。

◎過日日報社でテニスの優勝旗を出された、三越の陳列所に附札があつた、三優の字がギヨウエンペンであつた、三越には學がない番頭ばかりであるやうにも思はれた。

◎今日、東京都新聞の中里介山君から新著原主水を贈られた、讀んで見ると新進作家としての取材が面白かつた、主水が都新聞に連載せられたもので、時の幕府に切支丹を信んじた爲めに、虐殺せらるのを書いたものだ、面白く讀まれた。

◎ボンクラ先生の僕も何か著作したく野心漸々として、腕を振へば鳴らんとするを覺ゆるのであるが、今の處生存競爭ですもの故郷の兄から贈りて貰ふ織物を極めて薄口錢もて、賣り步いて居る、茶舖齋々圖主人曰く商業大學も卒業出來ますねと、僕の意志を助けし事、三軍の援兵を受けた如しである。

外事一束

▲口氏● 昨今タフト現大統領の政策を非難するも其攻擊原因は默して語らず

▲伊軍● トに大敗して兵五百を失ひ生殘の兵亦氣候の爲軍馬斃れ進退谷まる

▲露國● 内今や甚しき飢饉起り人民飢餓に迫り政府救恤金六百萬留を支出す

▲波斯● の一部カズヴィンは露占領することに決し露兵四千同地へ出發せり

▲南歐● 各地の獨逸諸都會に激震あり就中フランクフォルト最も激震を極む

▲墨國● 北部諸州マデロ政府を轉覆せんとて暴動を起し政府征伏軍を派遣す

▲伯林● 電報は報じて曰く英佛兩國領土交換說は無實無根も亦甚しきものと

▲土希● 兩國政府側のクリート島問題に關し昨今相互の意志疏通の兆を示す

俳句

▲仁川俳壇卯月會席上即吟　會員入選

題　小寒、榾、毛布（各一句吐）

◎六點之部

夕日さす山腰しき小寒かな　竹窓

◎七點之部

榾焚し猪汁し馳走進め鬼　香

忠臣の二君を固辭し榾の主　里石

雁晒ゐや毛布の續く京の町　絲翠

濡雁神干す旅僧や榾の傍　是空

小春日や理に立たる戶羅絹　魂霜

聖恩の能る毛布のぬくみ哉　老亭

◎八點之部

不意と立鰈の羽輕し小春空　月宗

寒ゐ日を襲し毛布や酒句ふ　枯柳

◎九點之部

入梭り蹈に煙る小春かな　淇水

◎十點之部

榾の戶や濁酒に鳴らす舌鼓　笹邊

南山の櫻一輪小春哉　梅園

◎十一點之部

百歳の蟹菜を干す小春かな　愛菊

鵰ゝ者ゝ袴褌刺す浦や小春風　瓢月

◎十二點之部

燃ゑ立た榾に浮雲・蝶障子　唫雅

◎十三點之部

殼と見し蝸牛の這ふ小春哉　蒼亭

◎十四點之部

猿親子參り候榾の宿　哲舟

牛風子道ふ頃禮の襟小春空　一滿

小春日や佛師が樣に眠る猫　譜南

◎十五點之部

山風に無駄燃いする榾火哉　月宗

梁川庄八（やながはしやうはち）

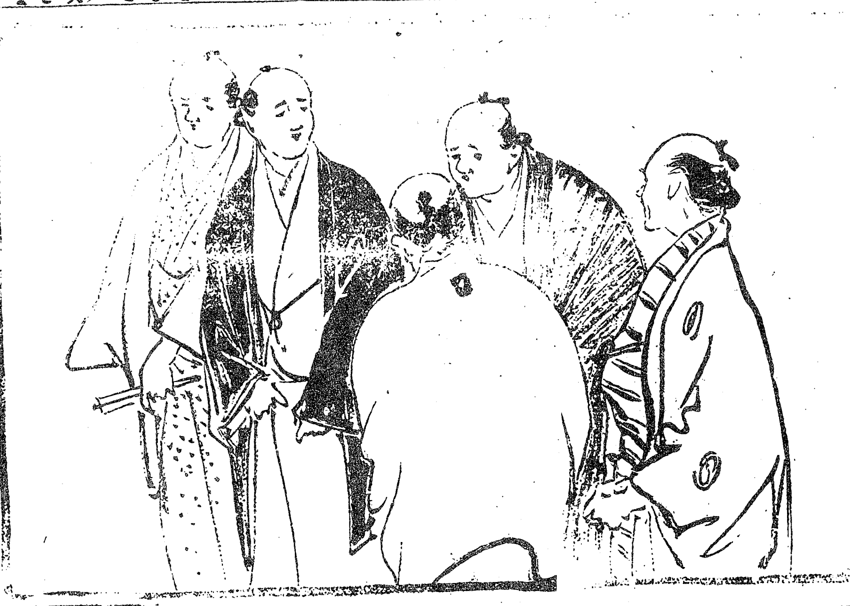
第四十一回

小金井蘆洲演

孝「借先達の御仰に從ひまして彼れから三日經つて、名主樣同道で御代官樣御陣屋へ罷出まして、證文を御返し申上げましたら、殊の外御悅びになりまして、誠に乃公の心得違ひであつた面目ないと仰しやいまして、御取置きに成りましたが、今日御呼出し狀が參りましたから、一同揃つて出頭致しますと、私の僅かの孝行を御賞美下さいまして、玄米三十俵に一代諸役を免ずると云仰渡して、別に心付だとあつて、十兩と云ふ金を頂戴致しました、是と申も皆旦那樣のお蔭でございまして有難う存じましたと一同打揃ふて御禮に參りました譯で　庄「ア、然うか……誠に感心な事だ、代官樣も殊に御悅びで拙者も悅ばしい、代官が意見を容れて其方を斯くの如く、賞美の手當に及んだと云ふは、遽ぢと御手で取るに憚かる勿れ、で負惜しみのない誠に感心な人物ぢや、よし〳〵速に拙者も陣屋へ禮に行てやう」と大層悅んで、一同を歸した跡で支度を直して、庄「拙者は過日飯綱權現祭禮の際、御陣屋に成た奧州仙臺浪人、梁川庄八と申者藤本甚太夫殿に御目に懸りたく罷出た、宜敷御取次下さい」

アセビリン

と申入ると詰合の下役共は△「赤彼の浪人者め先達の罰金でも取りに來たのぢやあないか」と心中恐れを懷きながら代官へ取次ぐと、森本は前非を悔悟して居るのだから、直ぐに一室へ通して面會、梁川から道同孝太郎の孝行を表彰して米錢を與へて吳れた禮を述べ且つ過日飯綱權現で自分も聊か禮を失して居たのですから誤言を致しますと甚太夫も大に恥入て以後交際を願ひ入ますから、悅で是では最早心配はない、と安心して種々馳走を受けて立戾ります、東金附近では梁川の事を北斗神明の如くに四民擧つて尊敬をする、山城屋に五六日滯在をして夫から改めて、代官始め一同に別を告げて、一ト先館山の城下へ往こうと云考で、東金を出立を致しまする當日は一同が送し此處を放れた、梁川はこれから房州保田へ出て、鋸山の日本寺の羅漢へ參詣をなし、鋸山の絕頂へ昇ると關東十國が一眼に見へると云、景勝の地でございます、是より加知山川名元名杯云處を過ぎて、船形から那古と云處へ參ると、此處には有名な那古の觀世音がある、是へと參詣をして北條から館山の城下へ這入る、恰度日の暮方で城下の入口まで參ると、旅舍の客引が澤山出て居りまして「エー旦那樣……當御城下御泊りでございますなら手前共へ御宿を願度う存じます、手前共は大坂屋でございます」「御疲れ樣で御坐いませう手前方へ御泊りを負屋と申ます」「手前は永田屋でございます」「手前は萬屋でございます精々働きましてれ賄其外御氣を付け申ますれ泊りを願ます」と口々に騷々敷位です　庄「五月蠅〳〵拙者は定宿がある、五月蠅奴等だ」と面倒だから



斷つて城下へ這入て來ると、細い小路から年頃五十二三の男が、揉み手をしてニコ〳〵笑ひながら側に寄て來て　上「エー旦那樣……當館山御城下御泊りでございますか、嘸かし御定宿もございませうが何うぞ手前共へ御留を願とう存じますが　庄「ウム貴樣は面白い奴だな……當城下入口に參ると、客引が何やかやでございれ泊りをと、ガヤ〳〵申して五月蠅ていかんから、定宿はないが有と申て斷てきたが、貴樣は只一人鼓に待受けて居つて泊つてくれと、賴ひのは面白い、家は何處で何屋と申すのだ　上「連雀町上州屋藤兵衞と申ます　庄「貴樣の家は繁昌を致すか何うか、上「ヘエ彼樣で繁昌を致して居ります　庄「ア、左樣か……泊るのは厭だ　上「何か御意に叶ひませんで　庄「ウム乃公は繁昌する家は嫌らいなのだ、何故だと云と繁昌する家と云者は、大概客に愛せられて繁昌するとは思はんで自分の家の繁昌を誇つてフタの客なぞを粗末にする者が多い、又奉公人共は主人の云事ばかり大切にして、客を大事に致さん、夫んな事が氣に入らんから、乃公は大嫌ひだから厭う　上「ウヘ——實は手前共は親父の代までは當館山一番と迄云はれます程、繁昌致しましたが、手前の代に細成りまして今では至て寂びれまして當時は繁昌を致しませんで、何うぞ泊りを願とう存じます　庄「ナゼ嘘を吐く　上「ヘエ繁昌をするか、致しませんと申上げますれば、お宿下さいますまいと存じまして　庄「ア、然うか泊つてやろう　上「有難う存じます」



東京電報

▲陛下の御精勵　天皇陛下には去る七日東京御發輦久留米に行幸遊ばされ陸軍特別大演習御統裁日々軍務を御鞅掌あらせられ目出度東京に還幸あらせられたるが連日長途の御旅行にも拘せられず益々御健勝に亙らせらるゝ趣きなるが二十日は御都合により表御座所に出御あらせられず御常の御殿に於て御休養あらせらるゝ由漏れ承はる

▲齋藤海相辭職？　廿一日來年度豫算に付き閣議を開き大体藏相の緊縮主義を承認せるが如く然れども海軍問題は海相の意思强硬に首相藏相の慰撫をも聞かず擴張を主張せり結局海相辭職せんと傳へらる

▲露國總領事　新任　是迄京城露國總領事代理チルキン氏總領事の事務を執り居たるが今回シー、エー、ルッチユ氏總領事に任命せられたり着任期は未定なり

▲米國副領事　轉任　在京城米國副領事チビル氏は今回大連同國領事に轉任其後任はレーモンド、エス、カルチス氏當分通譯として來任の筈[illegible]着任期は未定なり

▲陸軍進級異動　陸軍進級異動の件上奏裁可を經たれば一兩日中に發表せらるべし

▲山形中佐說　昇進　朝鮮駐箚憲兵隊司令部附中佐山形閑氏は憲兵大佐に昇任すべしと

▲官革激戰公電　十九日漢口に於て官革兩軍激戰し官軍死傷四百革軍七十余名なり段芝貴は戰死せりと傳へらるゝ旨某筋に公電ありたり

▲革命軍の不利　北京發電に依れば南京の革命軍不利にして上海より援兵を得官軍と決戰せんとす

▲蘇州領事公報　在蘇州池邊事務代理發目下上海方面より當地を通過して鎭江方面に輸送せらるゝ革命軍の兵士甚だ多し當地新兵は殆んど全部鎭江方面に出發せり當地は舊軍の一部及保線官により守備せられ警察及撰出せられたる民團百五十名及各國の兵士四百名によりて警戒せられ中流以上の市民は殆んど他に避難し目下義勇兵募集中なり

▲新政務と上諭　北京伊集院公使發電に依れば二十二日の上諭によれば監政大臣は度支部大臣をして兼任せしめ進署の辭職願は總て届けられず袁世凱の回奏に基き新內閣の新政務は上諭を經て施行し尙當該大臣は總理大臣と共に署名する事となれり

▲媾和の望み絶ゆ　午後漢口發陸軍省着電兩軍漢水を挾みて對陣す革命軍は機關銃榴散彈の到着を待つ爲め多分攻擊に轉ぜざるべし官軍は志氣阻喪の爲め攻擊せず兩軍の媾和は絶對的不調なり

▲厦門官吏逃走　厦門菊池領事發電に依れば革命軍政府より通牒せる當地暫定官制の重なる點は福建南部分附統制協頭各一名其下に司令、軍務、參謀、外務、平事の五部を置き平事は即ち民政部と認らる革命軍の云ふ所によれば民政部各課長の到着を待ちて事を擧げる筈なりと道臺海防廳長等は保安會設立の日に香港に逃げたり

北京特電

▲決死隊とは何者　二十一日決死隊と稱するもの約百名入京したり

▲北京宮中の暗鬪　攝政王は病氣と稱して出廳せず又上諭に對し署名せず右は慶親王及袁世凱に對する不平にして憲法信條を大廟に報告する大典にも慶親王を代理せしむる事となり一說には攝政王は憤悶の結果腦病を發し實際病床にあり溥貝勒初め親貴一統は慶親王を嫉む事甚しく宮中に禍根伏在せり

▲政府收入皆無　北京は大動亂の發生以來天津營口より若干の關税收入を受くる外各省より全く納税なし

▲皇族の慰撫使　北京政府は東山省人民を慰撫する爲め皇族一名を派遣すべし又蒙古各地にも夫々使節を派遣するに至るべし

▲內閣は有名無實　袁內閣各大臣の中受任せるもの僅かに四名而も最も重要なる陸海軍度支部大臣を缺ぎ當分受任者見込立たずの姿となりたり

▲憲法宣誓式　來る二十六日憲法信條十九ケ條を大廟に宣誓すべきに就き攝政王の代理として本殿に慶親王は後殿に於て其式を行ふべしと上諭發せられたり

門司特電

▲汪公使去就に迷ふ　汪駐日公使は廿一日下の關に來りたるも直に引返し東上せり其は同公使は呉祿貞の娘を娶とせる姻戚關係より必中大に爲すあらんとの意向ありて歸國せんと試みたるもの丶如く吹聽せられたる爲め直に引返したるならん兎に角氏が歸國を欲する心中を察し得べし

雜報

●土地調査狀況　最近　土地調査局土地調査の最近狀況に關して同局庶務課長の談を聞くに同局の事業としては外部にあつては調査及び測量の二部に分ち調査は準備及實地の兩調査を經て土地證明に至り又た測量は三角圖根及細部測量を終り地圖の作成に至りて終結を告ぐるものなるが本年七月よりは右實地調査即ち所有權調査の際更に地位等級即ち同局調査の大眼目たる地税賦課標準をも調査することなりたるが其の準備調査の如き本年度內に於ては咸鏡南北道、平安南北道及び江原道を除き他は悉く調査を終了する豫定なりしも節漸く結氷期に向ひ測量等に少なからざる不便を感ずべければ豫定に比し多少捗々しからぬは免れざる所あらん而して目下着手中のものにして且つ來る十二月より二月迄の間に於て必ず準備調査を終る豫定のものは京畿道龍仁、竹山、陽智、慶北道永川にして其他京畿道驪州、利川、陰竹、慶尙南北兩道昌寧、靈山、密陽、彥陽、蔚山、梁山、機張、釜山、金海の各郡亦本年度內に準備調査を結了すべき豫定のものに屬す實地調査は七月以降着手し且つ本年度內に結了すべき見込のものは京畿道安城、陽城、振威、廣州、慶北道慶山、河陽、慈仁、永川、清道各郡にして右の內陽城振威兩郡は既に調査を終り又た京畿道水原、南陽、慶北道高靈、玄風兩郡の如き本年度に着手せらるべきものなりと因に七月以前既に實地調査を終りたる各地に對しては漸次機を見て地税賦課標準の調査を行ふべく土地調査事業の如き近來漸く朝鮮農民の其の意を諒したるが殊に南鮮各地にあつては內地人の移住增加すると共に一層調査精神の鮮人間に周知せらるゝあり調査上何等の障害等を企つることなしと

●輸移入雜貨　朝鮮　既報の如く朝鮮に移入する大坂の雜貨品は一時粗製濫造の爲め不評を買ひたりしが近年にいたりては大に製品を吟味し來りたるより信用漸く舊に復したるが一方獨逸品の勢力却々に侮り難く洗面器類及びナイフ等は殆んど同地よりの輸出に係れりといふ尙は東京品は洗貨等の關係より大坂品に比して二割方高價なるも近年の朝鮮[illegible]も東京趣味を歡迎するの風あるを以て從つて東京品の勢力も亦盛んなりといふ

●清國事變と貿易(一)　總督府第六回調査に係る清國事變の貿易經濟に及ぼす影響を記せば左の如し

(甲)仁川に於ける海運及貿易上の影響

(一)海運の影響　(イ)仁川芝罘間貨物の減少　本航路航行の汽船吞龍號は每月四回の往復をなし搭載貨物の大部分は芝罘仲繼の上海貨物なるが八月末航より冬物仕入の增加と共に每航一千乃至一千七百個の當港揚貨物を齎らしたり即ち九月中の陸揚個數四千九百九十六個にして前年同月の三千三百三十一個に對し約五割增を示し十月上半期は二千二百八十三個にして之れまた前年同季に比し七割增の好成績を擧げ前途尙增加の見込なりしに同下半月二回の當港陸揚個數は二千二百六十六個にして前年同期より俄かに五割方を減少したり殊に第四回目の入港(十月二十六日)には僅かに七百八十一個に過ぎず次便迄は到底多數の貨物なるべき見込にて騷亂久しきに亘らば本航路は折角の航盛期を逸するを免れざるべし(ロ)仁川北清航路は動亂の爲に未だ何等の異狀なし

(二)商取引上の影響　在留清國人の本國より貨物を仕入るるに當つては其の半金を即時に仕拂ひ殘額は三四ケ月に亙りて仕拂ふの常習なるが今後本國の動亂收熄し財界常調に復する迄は如斯信用取引に少なからざる打擊を蒙るべきは明なり現に在留清商等は總て仕入手控を旨とし十月下半の如き先約の外新注文は殆んど見合せの狀態を呈し而して一方華客たる鮮人內地人乃至地方淸商等に對しては之れに累を及ぼし永年の取引狀態を傷けらるゝが如きは固より不本意なるを以て多少の手加減はあるも努めて常例を維持し徐ろに時局の克復を待望し居るものゝ如し

●水產物有望　朝鮮　支那輸出　朝鮮より直接支那に輸出する水產物は一ケ年約十萬圓にて年々增加の傾向を示せり種類は重もに干鮑、干海老、干海鼠等なるが支那への輸出は專ら朝鮮より一旦日本に移出し夫れより支那に輸出され居れり而して從來日本より支那に輸出さるゝ種類は煎鰮、鯣、干鮑、干海鼠、干牡蠣、干鰯、干海老等にして近年に至りては鹽鰯、干鯖、鹽鮭、鹽鱈等の輸出を見るにいたれり此の一ケ年輸出額四百萬圓將來年を追ふに從つて增加するはいふ迄もなし而して近時上海、香港、漢口等に於ける日本官憲より單に干魚の種類のみに限らず生魚の如きものも類も相當の方法を設けて輸出されたき旨の報告あるが生魚輸出に就ては冬季中の或る期間は別として其の他に於ては輸送の方法及び機關整はざる爲め今日のところ輸出する能はざるの狀態なり又支那人は肉類以外非常に魚類を嗜好するが故に若し輸送の方法と機關とにして全からんには今後日本の生魚は多く支那へ向つて輸出さるゝにいたるべしと庵原水產課長は語れり

●學務主任會議　二十日より總督府に於て開會中なる各道學務主任會議は二十二日も前日に引續き打合せ會を開きたるが同日を以て豫定の會議終了

●稅制調查案經過　京城民團稅制調查案は此の程にいたり大体の草案出來したるを以て重なる吏員集合し種々研究商議するところありしが結局慎重の調査を要するを以て更に研究を重ね其の上にて民會に提出する由なり

●京城發達史脫稿　京城民團にて編纂中の京城發達史は此の程漸く脫稿し昨今係主任の手許に於て檢閱中なるが完了次第上梓に附する由にて全部八百頁の大册子なりといふ

●商議役員會開會　京城日本人商業會議所にては二十三日午後六時より役員會を開く由なるも重もなる議案は會頭選擧期日決定の件十二月五日東京に於て開催さるゝ聯合會に提出議案建議の件同聯合會に委員派出の件等也



●當地清商の金融　韓一漢城朝鮮商業三銀行員談　清國動亂後に於ける京仁在留淸國人商人間の金融上に及ぼしたる影響の詳細につき韓一漢城朝鮮商業各支配人の談左の如し

△韓一銀行　は支那人に對する貸出は今日は勿論動亂前と雖も殆ど無く只僅の預金取引あるのみなるが其口數も十數口に過ぎず動亂前に於ては其の殘高常に八九萬圓を示せしものが昨今は聊か減じて四五万圓前後に至りしも由來支那商人の預金方法なるものは預入引出共に頻繁にして前日の預金は翌日直ちに引出を爲す等の狀態なれば預金帳尻の減額を以て俄に彼等金融狀態の逼迫と見るは早計に失す此際彼等在留支那商人が採り居る金融策は各銀行より貸出も仰がざる代りには預金をも引出さゞるの方針に進みつゝあるが如しと

△漢城銀行　は支那商人の取引先十四五名貸出金帳尻一二萬圓預金帳尻一萬圓を示すが狀態にして動亂後と雖も何等變調を來さず又た彼等が手形支拂法の的確なるは實に感ずべきの至りにして動亂に依り特に影響とも稱すべきものを認むるを得ず之れに反して在留支那商人と密接なる取引關係を有する當地朝鮮人商人は動亂後延取引を中止され且つ從來の掛代金に對する督促嚴なる爲め金融上の逼迫を感じをるは蔽ふべからざる事實なるが如し而も動亂後の今日に於ては支那商人に對する貸出は一切差控へ居れりと

△朝鮮商業銀行　にては動亂前と雖も在留支那商人との取引は極めて少數の預金取引あるのみにして其の取引關係の及ぼす範圍內に於ては彼等の金融狀態に格別の變動を見ず只今回淸國動亂の影響とも言はゞ言ふべきは坂神地方に於ける對清貿易商等が金融上に大打擊を受けたる反動として當地內地人商人間の金融狀態か聊か變調を示し居るが如しと

●民團徴税成績　京城　京城民團に於ける十月分の徴税成績は民團税調定額十九萬千七百八十八圓に對する收入額九万六百七十三圓使用料及手數料調定額二萬四千三百四十二圓此收入額二萬六百二十六圓財產收入調定額七千八百三圓收入額三千百四圓雜收入調定額七萬七千六百十九圓此收入額七萬七千六百十九圓の中民團税は十月一日現在を以て課税せる第三期分の實收少なき爲未納多額を示せるものなりと尙納税の模樣を聞くに納税告知書を發し其納期日前後に納入する者一日平均七八百圓にして督促狀を發するに及び一日平均千二三百圓の納入あり故に每期督促狀を發するは非常に多く第二期分に對する督促狀は實に金額に於て三萬四千六百十一圓人員に於て一万八百六十八人なりといふ然して過年度未收入額は實に六萬三千百廿六圓なりと

●滿洲新民屯の近況　盛京　新民屯より當地某氏に寄せし私信に曰く同地も動亂の影響を受けて京奉線は每列車北京よりの避難者を以て滿載の姿にて物情恟々革命黨員らしき者日に出沒して暗流横は奉天の同志と相通じて隱密の裡に何事か劃策せるものゝ如く人心は一樣に革命黨に歸して官憲は手の附け樣なく寧ろ成行を觀測し居るものに過ぎず獨逸が軍資を政府に貸與せりとの風說專らにして獨逸人に對して民情面白からず露國の陰險なる手段を恐れて是亦排斥されつゝあり、目下同地に於ける日人は八十余名にして川里の二ケ處に夫々堵に安んじ居れり然れども一般商況は沈滯して又振はず紙幣の信用地に墜ちて殆んど六割以下に取引せられつゝあるも是でさへ授受を喜ばず一体に物價の暴騰を來たし商賣の取引は一時杜絶の狀況に在るも日用雜貨品は逆したる影響なし又近來强盜の跋扈甚しく夜間通行するもの一人もなく午後五時過より門戶を閉し休業の態なり云々

●朝鮮車輛會社發起　當地人力車營業者たる伊藤、早瀨、前山、別府京城の五組は從來組合を設けて營業上同一の步調を執り來りしが先般來舊式の車輛をば全部護謨輪に改めしが爲め現在の人力車賃銀にては到底收支償ふべくもあらず然りとて値上げを斷行せば顧客の迷惑少なからざる譯合となり旁々新式車輛により營業者乘客共利益を得るの方法に出づること刻下の急務にして此方法としては大規模の營業をなすの外なしとて前月初旬來前記五組の外五六の有志にて協議を重ねつゝありしが遂に議熟し之等の人々發起となり十月十九日附を以て朝鮮車輛株式會社設立を出願したり而して會社の資本金は十万圓とて一株五十圓二千株に分ち各發起人に於て全部を引受け賃銀を現在の儘として大に業務の刷新と擴張を計る筈なりと因に現在上記五組の人力車輛數は二百臺にして之が挽子二百餘人を使用しをれるが是迄挽子間には種々なる惡習あるを以て會社の下に統一せらるゝこととなれば自然惡弊も除去せらるゝ事となる可といふ

●私立學校と校長　從來朝鮮人の私立學校の校長は兩班の名望家を推し單に名のみなりしが今回私立學校令により責任校長を置かざるべからざる事となりしより昨今各學校共右に關し協議中なりと

●熊本縣人會開催　既記の如く廿二日午後六時より熊本縣人會を花月に開きたるが出席者七十餘名にして頗る盛會を極めたりと

●宇都宮京通社長東上　京城通信社長宇都宮高三郎氏は二十二日午前九時南大門發東上したり

●京城水道給水栓の激增　京城水道に於ける十月中の給水栓取付數は百三戶數二百餘戶にして四月以來七百五十栓の增加を見たりと

●仁川幼稚園學藝會　仁川居留民團立幼稚園にては來る廿五日(土曜日)午前十時より兒童の學藝會を開催する由にて一般各人の參觀を希望すと

●仁川の巡查駐在所新設　仁川警察署にては今回管轄區域內なる舞衣島及蛇川里の二ケ處に巡查駐在所を新設せり

●北部警察道場開場式　北部警察署にては來る二十六日午後一時より擊劍道場開場式を兼ね擊劍會を開催する由

●兩日の直通列車　二十一日午後八時三十分南大門發長春行列車には代議士佐々木安五郎氏一名にて二十二日午前〇時二十分長春發南大門着列車には一名もなし

●各道の燃料調査　農商工部にては過般來樹木伐採保護の必要上各道に於ける溫突燃料及其使用高調査中なりしが一兩日內に右調査完了の筈なり

●森安博士の歸京　曩て朝鮮に於ける轉地療養地實查中なりし總督府醫院の森安博士は右實查を了へ二十一日歸京したる由

公人私人

▲中村光吉(鮮銀平壤支店長)　廿一日平壤へ

▲韓承周(平壤無煙炭所長)　廿一日不知火へ

▲園田靜造(大和ホテル支配人)　廿一日奉天へ

▲吉田馬吉(憲兵大尉)　廿一日浦尾へ

▲京城手形交換高▼

十一月	金高	枚數
廿二日	三四五、六三〇、九二〇	七大三

▲治外法權▼

先晩埃及の統監キチナア將軍は女嫌ひで有名なものだ、サレヤこそ彼れは前年東海の姬氏國へ來たとき、遂にゲイシャガールに親しまなかつた▲トコロが此有名な女嫌ひのキチナアが、最近「朝顏女」と云ふ綽名のある、美人で金持ちで而かも子供の二人もある後家殿に捕虜にされた、ソコでロンドンは此評判で大騷ぎだ▲廣東獨立軍政府の外務部長伍廷芳が例の新聞王ハーストを通じて米國政府を動かし、革命の目的を遂せんと試みて居るのは一寸氣の利いた仕方だ、共和がドウのコウのと愚圖愚圖して居る中にトンビが油揚げをサラウよ▲今度の革命に就いて邦人中の豪傑連が大分乘出した樣だ、併し是等豪傑中にラファヤートたり將たゴルドンたる者幾人かありだ、否な否な、革命平定後其多少の働きに因つて支那人より感謝の辭を受くる者幾人かありだと思ふて玆に至れば豪傑連の支那行は實に心細い事だ▲昨本紙の社說に商業會設立の提議があつたが、斯は官民一致で是非共成立させるようにしたい、早今後に於て自然に競爭をするのだ、此い話が浦汐線と安奉及び朝鮮鐵道とは既に於て我朝鮮に外人旅客優遇誘引の機關を設けるのは、一は鐵道を扶け、一は京城其他沿道都市の繁榮に資する譯だ▲我商業會議所が其會頭を選舉問題に於て互鬪するソウだが、互撰は定款の命ずるところ何も不思議はない、只だ區々たる情實に搦まれ定款の精神に戾るような撰擧をしたら、ソレコソ問題だよ。

吉原遊女の掟

嘉永年間芳原江戸町二丁目佐野槌と云ふ遊女屋にありた「吉原の掟」は左の條目に分たちのゝ嘉永年間と云つても古くはないが今より五十年位のものだ

一、遊女勤の儀は第一許を專らと可致、假初にも誠の心持間敷事

一、年明の日迄、此方より一錢の合力も無之間、左樣相心得、隨分出精いたし、主人方へ金高過分に取込に相成やう、肝要たるべき事

一、衣類、夜具、つむりの物、外に諸道具不殘自分にて、拵方致に付ては、馴染客へねだりかけ、傍輩にまけぬ樣致すとも、借金出來候儀は毛頭無申間敷事

一、定通仕着は此台惡しく、下直の品を遣はす時、成丈自力を以て宜敷き衣類を拵可申、仕着は安いもの故、着用致事恥と心得、早速曲のけ候儀、勝手たるべき事

一、座敷部屋共に板敷にて相渡候間、内造作、諸道具、張付等自力を以て隨分美事に拵へ可申、尤座敷部屋代金無滯急度可上納致事

一、總て客人を大切に致体にもてなし、何れも馴染のめし、馴染に相成樣に出精いたし、年中物前數日入用夜具衣類等ねだり取候共、あたじけなき仕うちの顯れ不申樣、仲公とし〆し合せ、客を逃し不申樣、成丈鼓も取り可申、心弱く人情を辨ひ、もろき儀堅く致す間敷、乍去空泣は上手に可致事

一、美男、大通、心意氣の面白き御客だり共、ほれ事は停止致置候間、此義は乾度相愼み可申事

一、不男、髭むちや、極老人又は盲あきの御客たりとも、金澤山の方は殊更ほれた体にみせかけ、口中臭くとも、鼻に袖を掩ひ、眉に皺を寄せること、堅可爲無用事

一、傾城に誠なきものさ、百も承知の大通は、傾城より誠なきものにて女郎屋に油蟲をねぶらせ、懷中に女郎を塞がらせる工夫を致族もまゝ有之、左樣の客人は未人の爲は勿論、實身ものち／＼には心中などのおとし穴に陷るゝの故早く見切り、闇雲に突出し可申、左樣の人物にも無之實體なるよい御客にても、勘當なぞ致され、金氣の拔けたる客は、是又愛想をつかし突出し、假令宿なしになり候とも、決して構ひ申間敷事

（以下次出）



●續五藝妓淚の內情（十二）

▽人面獸心の堀內實

彼れ堀內實は己れが南部警察署に提出したる營業願の一つも許可せられざるは如何なる理由なるかを覺り得ざりしが如し然るに南部署に於ては彼が奉天天津等に於て退清處分を受けたる者なる事を賤知したる爲めにして其營業を許可せざるは思ふに彼の京城在住を面白からずと見たる當局が暗默の諭示退去方針なりしが如し然るに身の程知らぬ堀內は營業不許可と極りたる今日曾つて三好和三郎氏との間に契約したる**料理屋營業に使用目的家屋の落成期の遲延**したるを**口實**に同氏を相手取りて**違約金請求の訴訟**を**提起**し居るなり（訴訟の一埒は追て詳記すべし）若し堀內にして普通人の考を有し居らば營業不許可と同時に當地を退去する方針に出づ可きに以前營業當時の抱妓を貸金の抵當物視し玉家席に預けて其膏血を搾り居ること既述の如くなるが更らに彼れが抱妓及養女を如何に物品視せるかは下の一例に徵して明なるべし、即ち金奴が病氣治療中なるは既記の如くなるが病氣の經過面白からざるを心配したる玉家席の主人が堀內に向ひ金奴の病氣は或は危篤に陷るやも知れざれば今の內に內地に歸して遣つては如何ですと忠告せしに對し堀內は如何に**金奴**が**病氣でも私が伴れて歸れば五六百圓には賣れます**と公言したりと併しながら當人の金奴は堀內と絕緣せんことを希望し他に仕替り運動中なりしが病身の事とて思ふに任せず又金子には母親の委任狀を楯に取り如何にもして伴れ歸らへと惡辣手段を廻らしたる事も既述の如くなるが去る二十日午後三時頃突然**金子**に**宛し親許より母危篤**との電報來れり此と同時に堀內の方よりも金子に對し俺の處にも金子を歸して吳れとの依賴來りたれば至急出立すべし遲れて死目に會へぬ樣の事ありては一大事なりと急き立てられし金子は周章狼狽し荷物の如きは其儘に券番に對して十一月二十日迄の稼高中より旅費丈け前渡を賴み出した堀內は之れに故障を入れ改めて堀內の方より旅費を貸與し私有品の全部を保管名義にて差押へ二十一日夜金子出發に際しても種々の壓を加へ尙は**雇人某を監視人として附添出發**せしめたるが其際金奴は何やら金子に物言ひたげなりしも要くにの手前を憚り遂に一言も言葉を交はさず淚の目を見合はせたるまゝに別れたるなり金子の母果して危篤なりしや疑はしき極みなり元來金奴は本年四月重病に罹り奉天日本赤十字病院に入院治療中なりしに五月中堀內が同地引拂ひ當地に於て料理店開業と決するや堀內は金奴が身体の自由を失ひ居るにも係らず院長に對し當人に退院の希望ありと僞り無理に退院せしめたる爲め一時危篤に陷りしが七月上旬運好くも快方に赴きしより堀內の跡を引受けたる金城館の營業人に抱へらるゝ約束を變更して當地に強制的に伴れ來られたるなりとぞ、以上記述するは即ち五藝妓淚の內情なれば次回よりは題を改めて更に罪跡を發かんと加へん

●漢城衛生會舍宅內の椿事

△何故か秘密に附せらる

事少しく舊聞に屬すれども去る十三日午後八時過ぎ光熙門外塵芥燒却場漢城衛生會舍宅內に傷害事件ありたるが當局者に於て秘密に附し公にせざりしと憤慨しつゝあるものあるを聞知したる事件の眞想を探りたる顚末を報ぜんに被害者は漢城衛生會人夫光熙門外舍宅第二號舍宅居住表柳吉（五〇）にして加害者は福島縣人當時土木請負業松本組出張所雇人大木辰藏（三九）なるが傷害事件の原因及動機を聞くに被害者表柳吉は數年前より衛生會に雇傭人として勤務し職務に熱心なるも天性酒癖ありて飮酒の都度發狂し暴行屢々なるより其癖を止めざれば解傭す可しと傭員監督者たる衛生會雇員光熙門舍宅第一號に居住する丸山鐵太郎まで當該監督官より注意あり一方加害者大木辰藏は此內渡鮮し松本組に雇れしも土木業に經驗なき故丸山に對し適當の職に周旋し吳れと松本組主人より依賴し事件發生三四日以前より已に加害者辰藏は丸山方に寄食中なりしが此の事を聞きたる被害者柳吉は自分を解傭す可き準備中なりと誤解し十三日夕刻より飮酒し一杯元氣にて丸山鐵太郎の舍宅に行きたるに既に門が閉ぢありし故柳吉は丸山さん急用〳〵と呼び立てしにぞ丸山は何事ならんと門を開きしに物をも云はず柳吉は棍棒を揮つて丸山を毆打したる騷動を聞きつけたる大木辰藏が立ち出でしに柳吉は又もや辰藏に打ち掛りしかば生憎氣なり辰藏は柳吉を組伏せ門の閂用の鐵棒を以て柳吉の頭部を毆打し重傷を負せたる事件にて此の急報に接したる銅峴分署よりは警察醫衆務新町病院長杉原醫士と同行警官出張し檢耕し被害者は佐藤病院に入院せしめ取調の結果互に意思の疏通を缺きしより起りし事にて別段の遺恨あるにあらざれば大東南生人なる人仲裁に入り加害者より治療費を支拂ひ和解整ひしを以て訓戒放免になりたるなりとかなるが事件を妙に隱したるより世間の誤解を招きたるなり注意こそ肝要

●靈子作用主唱者來る

東京靈理學會主田中守平氏（二八）は多年研究の結果玄妙なる靈的作用を發見し稱して靈子の發動作用といひ之れを病氣の治療に應用して効果を收めたること屢々あり此事は既に東京の諸新聞にも掲載せられ世人の見て以て異とするところなるが氏は這回來鮮し最初釜山に滯在して同地有志家の希望に依り之れが應用施術に從事し更に近頃京城に來り明治町二丁目（佛國教會堂前）に靈理會支部を設け當分滯在の筈なるが今氏の談に曰く『自分は元來政治に趣味を持ち之れが問題にたつさはるを好めり三十六年秋滿洲問題に關し當局の外交不振を慨し遂に 陛下に直訴する等の過激の行動に出でしため當局の忌諱に觸れしことあり同年冬感ずるところありて郷里岐阜に歸り同時に武並在の山奧に入り方二間の庵を結んで居る事滿四ケ年其の間絕食などをして心理の狀態に就き瞑想研究せる結果一種靈妙の作用を發見せり而して此の作用の由つて生ずる原因を究め之れを靈子と名づくるにいたれるが蓋し靈子は精神と物質との根源にて又萬物生命の根本たり而して之れを人体に應用して的確に治療し又は或程度迄生物の缺損部を作出することを得べし而も催眠術の狀態なく且つ被治者の信疑如何に拘はらず其の効を奏すべし云々』と尙氏は本月二十日より二十六日迄向ふ一週間希望者に依り一般の施術を爲すべしといふ

●怪獸の出沒　仁川府蕃邑

面鶴山里に近來ヌクテーと稱する犢大の怪獸出沒し人畜に危害を與へつゝあり同里民は頗る恐怖の念を懐し夜間小兒の外出を一切禁じつゝありと云ふ依て同所駐在所石村巡查は近日月明に乘じ探見を行ふ由なるが正体見屆けたる上里民總出にて同山野の狩をなし撲殺すべしと云ふ因に同所にては昨年來該獸の爲め牛一頭豚三頭咬殺せられしと云ふ

●京仁合同喜多流謠會

京城仁川兩地の同好者相圖りて二十三日（新嘗祭）午前正十時より仁川入阪樓に於て開催すと番組左の如し

月宮殿（大島氏、杉浦氏）田村（小松氏、田中氏）小督（池邊氏、ツレ齋藤夫人、杉浦氏、友松田令孃）松風（城氏、ツレ伊藤氏、秋田氏）羽衣（進家夫人、ツレ入三宅夫人）蟬丸（松田令孃、ツレ新庄令孃、齋藤氏）鬼界島（進家氏、成則近氏、廉横山氏、鈴木氏）▲囃 杜若（多田氏、進家氏、中村氏、桐原氏）阿漕（大西氏、進家氏、中村氏、桐原氏）船辨慶（立花氏、進家氏、中村氏、桐原氏）▲番外 藤戶（高野氏、江尻氏）▲獨吟（末永氏、江尻氏、河野氏、白鳥氏、大浦氏）祝言

仲居評判記

淸華亭のれ花

藝妓衆のれ噂は事珍らしくもなし稀には仲居衆の評判も聞せて吳れとの御注文に從ひ第四番に披露仕るはれ花さんは大分縣東國東郡安岐町の生れでれ父さんは鈴木銀平さんと申します本名も同じくはなで當年三十二歲である、一寸斷つて置くが評判子は賤はれ世辭の拙い無細工な無粹者であるから書くことがドウモ露骨になつて不可んのです可成注意は致すが大概の處は大目に見て頂きたい、扨れ花さんは決して美人でない美人でないことは見た通りで御愁傷樣ながら致し方がない併し其氣質の優しい事と云つたら此上なしで平常ニコ〳〵笑つて居る薩張りとした人好きのする女である、デップリした肥へ案配、一升五合位の酒は平氣だと云ふ位はある、內地で一度れ嫁に行つたのだが御亭主が意氣地なしかで離緣したのだ相だ、現に角苦勞も相當に仕て來た丈あつて思ひ遣りも充分、賣れない藝妓さん方が小遣錢にでも困つて居ると相當心配をして遣ると云ふ風だから藝妓衆にも良ければ客受も良い、と云ふに係はらずれ勝な將とソリが合はぬ、或人はれ花が淸華亭流れ勝流を呑込まぬからだと云ひ、或人はれ花流が手緩いからだと云ひ風評百出であるが其樣な事は何うでも宜いとして茲には只だれ花さんを紹介するに止める。

●自轉車の乘逃げ

高部山元町三丁目玉井銃砲及自轉車商店へ去る二十日午後二時頃年令二十四五の男入來り自分は桃山遊廓柳屋帳場の者にて京城新町迄急用にて行く故一寸自轉車借り受け度しと申込みしより同商店にては前記柳屋と知り合の關係なれば何氣なしに貸與せしに乘り行きたる儘今に戾り來らず柳屋へ照會せしに該左樣の者此方に居らずとの事に初めて詐欺に罹りし事判りたり從來市內各商店にて商品の詐欺に罹る事は間々ある事にて敢て珍敷事にはあらねど能く〳〵注意すべき事共なり

●中檢の獨立藝妓

十月中旬中券番から記錄を破つて獨立藝妓と名乘りを揚げたれ鯉拍子の成績は頗る良好なるが去る二十日れ鯉同樣獨立藝妓として同券から打つて出でたる可代拍子は東京上槇町生れ本名は尾崎セヤクと申す當年二十七歲の年增盛り新橋は板新道の吉野家から出て居た時左る方に落籍されて日本橋上槇町にツイ先達迄一本立で柳家白助の御神燈を揭げて居たのだが某所に夫れ都合と云ふものが出來て塵うしようかしらと考へてる所へ誰て仲好しのれ鯉から『れ入來ようれ入來よう』と勸められたので橫に傾げた首を眞直に立直して『ドウゾ』ところは能り出たので御座る

●捌翠樓辨子の再現

大阪市南區難波新門町三丁目龜井スエ（二五）と申したら誰も御存じは無らうが昨年の十一月迄捌翠樓に於て辨子と名乘つて左褄取つて居た女と申せばウン彼れかと領かるゝなるべし夫れが御承知の運成る方樣に落籍されて大坂に歸つて居りましたが御都合わつて再び元の捌翠から元の名の辨子を其まゝ『何分ともに』と廿日から能出なり、イヤ何時見ても美しいこと〳〵

●花嫁御の重婚罪

仁川府多所面花島洞二統九戶李奉春の妻洪姓女（一八）は花島里一統一戶金甲順（二九）に娶られ府內面盃洞崔學洙（三五）に重婚を結び四日間同棲し居たるを李の兄に發見され取戾しを受けたるも其筋に告訴され二十一日仁川區裁判所に於て崔學洙洪姓女共に懲役五ケ月に處せられたり因に洪は已に姙娠七ケ月なるを以て北島部氏の辯護により罰金六十圓にて贖罪となる

●仁川の罪が大連で

仁川本町二丁目町田文次郎方雇人渡邊潔（二七）及高森俊夫（二三）の兩人共謀し同店商品の短刀一振を窃取し得意先より前借賄代金を詐取し逃走したるは已報の如くなるが兩人は二十一日大連に於て取押へられたる旨仁川警察署に通知ありたりと

●足袋三足反物二反

仁川府外面皇谷里一統四戶農金順根（一七）は去十四日仁川宮町二丁目堀篤二郎方店頭にて足袋三足代一圓三十錢同十八日本町二丁目橫山濟吉方にて反物二反代十二圓六十錢を窃取したる事發覺し二十一日仁川署の森澤巡查に逮捕され取調の上二十二日檢事局へ送らる

●演藝だより

▲浪花館　三遊亭若遊三一座の落語手踊一座總出の喜劇等あり極めて賑やかなり若遊三二十三日の出物は芝居噺

▲歌舞伎座　中村歌五一座廿三日の前狂言は『覺仇討』切『傾城郎話堀山姥』二十四日は前『肥後駒下駄』切『御所櫻辨慶上使』なりと

▲御成座　新派浪花節劇タイムス團二十三日の藝題は『肉緣仇血淚』なりと

▲壽座　初日以來好人氣なる桃中軒雲御一行二十三日夜の讀物は花園學の新講談『伊藤公爵の傳』『大學生桂意』の二席にして雲御の讀物は滿席が彼の痛快なる武士『村上喜劍』が義士の忠烈を慕ふ悲壯の一齣後席は『橫川勘平一番乘り』



遠洋航海より歸れる 某海軍將校の實驗談

七月
六日曜
25日
午前九時 會見

石鹸の煤は眼を惡くする―石鹸では落ちない―不思議なのは洗粉の効果―中山君も未だ知るまい―

去る七月二十五日午前九時、クラブ本店の主人は、今海軍部内で少壯有爲の譽れ高き某將校の訪問を受けた。氏は碧海涯ゆる太洋に久しく遠洋航海の勤務に服して居たが、頃者歸部の人となり、同郷の交りを以て久方ぶりに主人を款橋の其にたづねられたのである。談は壯快なる航海中の出來事や、珍奇なる外國の風俗などからして、終に海上の日常生活談に移つた。中に就いて氏が軍人氣質の壯重しい口から、海上の衛生に關する意外の實驗談を聞く事を得た。偶然同席せられた文學士K・O氏が頗る面白い實驗なりとて直ちに筆を執つて、これを本店主人に寄贈せられた。本店は某將校の親切と文學士KO氏の好意を深く感謝す。

（某將校の談）僕等が遠洋航海の時に一番困るのは、石炭の煤が眼の縁にタツ附く事です。一體彼の石炭の煤位眼を刺戟するものはないので、それは軍艦に乗る人が、直ぐに鼻や咽喉を惡くするのでも分りますが、吾々の方でも眼瞼についた煤が眼の粘膜を刺戟するので、うれが仲々石鹸などでは落ちないのです、夫れ許りではない、眼の周圍に附着した煤をよく落さないと眼の開閉に伴うて、それが自然と粘膜を刺戟して炎症を起し直きに眼を惡くするのです。此れは動かすことの出來ない實驗談です。ところが不思議なのは君の處で製造せらるゝクラブ洗粉です。あれで洗ふと、不思議にその煤や機關油が奇麗に落ちるのです。うれが爲にクラブ洗粉は眼の爲めにも大變良い。うれに陸に住んで居る人には迚も、分らない經驗で、恐らく製造者たる君でも其の事は御存知ないでせう。

私の親友の機關將校なども皆、洗面の折には必ずクラブ洗ひ粉を用ひ「機關油や煤烟の附いた時、石鹸は駄目だ僕等は洗粉でなくちや不可ん航海中には是非洗粉でなくつちや不可ん」と始終いつて居る位です。

僕は僕等の經驗から、クラブ洗粉を單に化粧品、女子專用の贅澤品として世間に見て貰ひたくないのです、如何なる男子にも必要缺くべからざる實用品として見て貰ひたいのです、僕はさういふ意味から、武骨の習慣ある我輩自らでのクラブ粉洗を軍艦上に於ては絶對的の必要品として友人間に勤めて居る、友人も亦夫れを認めて常用して居る。是れ等の關係から眼やなんどが惡くないことは明かである云々。

茲に於て本店主人は、クラブ洗粉は淡水は勿論、海水に用ひて、差支へないのを同將校に申上げ、其の原料中のミルク及び其他の藥品と澱粉の作用をも說明し其の用途と效用の意外なる事を申し上げると共に、又た此の日計らずも吾がクラブ洗粉の未だ世に知られて居ない大なる效用を承はることの出來たるを喜び且つ謝し、再會を約して快を分つた。



洗粉は斯の如く健康を重んずる海軍將校の常用品なり